

## 平成27年度 霧ヶ峰自然環境保全協議会の取組み(案)について

基本計画		平成27年度 取組み
1 霧 ヶ 峰 保 全 再 生 計 画	(1) 草原・樹叢の保全再生	1 自然保全再生実施計画及び個別作業計画の実施
	<自然再生>	
	自然再生実施計画の策定とそれに基づく具体的対策	(1)平成25年10月に策定した霧ヶ峰自然保全再生実施計画に基づき定めた個別作業計画について、モデル的な地区での保全再生作業を今年度と同様に実施し、計5年間継続する。
	<雑木処理>	
	関係団体による連絡調整会議の開催(実施箇所の調整)	
	雑木処理ローテーションの検討	
	全国からの参加促進(参加体験型エコツアーとの連携)	
	協議会で決定するレンゲツツジの対策方針に沿った適切な管理	また、効果検証のためモニタリング調査を行い、検証により得た知見や経験から得たノウハウ等を集積して他地区への拡大を検討する。
	(2) 湿原環境対策	2 延焼地の影響調査の継続
	樹木による地下水の蒸散が乾燥化を促進⇒樹木の試験的伐採と効果の検証	(1)草原及び踊場湿原における影響調査の継続(調査者:諏訪市、長野県環境保全研究所、土田座長等)
	踏圧防止や土砂流入対策のため、遊歩道の改良、木道整備(踊場湿原、車山湿原)	
	土砂対策のため、集水域内の草原の荒廃地、裸地化箇所の修復(車山湿原周辺遊歩道、八島ヶ原湿原周辺)	
	蛇籠など自然的材料による土砂の流出、崩壊防止	3 ニホンジカ被害防止対策
	冬期のスキーやスノーシューによる観光客侵入防止のため、注意看板等の設置	(1)ニッコウキスゲ群生地等における電気柵等の設置・管理(設置主体:県、下桑原牧野組合、車山高原観光協会)
	湿原環境の理解促進のため、観光客や住民に対する啓発、教育対策	個別作業モデル地区(車山肩東ニッコウザサ刈取地区)への電気柵の設置を検討。
	調査研究体制の整備(研究機関、研究者の連携による定期的、継続的な調査研究)	(2)八島ヶ原湿原防鹿柵の維持管理 八島ヶ原湿原防鹿柵の巡回、メンテナンス
	(3) 牧草地における在来植生復元	ンス(実施者:県、諏訪市、下諏訪町、霧ヶ峰自然保護センター、八島ビジターセンター、諏訪市自然保護指導員、下諏訪町八島湿原保護指導員及びパークボランティア等)
	在来植生復元手法の確立 (小和田牧野の試験的取り組みを基に)	(3)ニホンジカの捕獲の推進 野生鳥獣捕獲体制の整備推進
	牧草地全体への植生復元の拡大	
	観光客等の入場の承認と保全協力金による植生復元の継続	(実施者:県(林務部)・関係市町村) メスジカ捕獲強化月間の実施 (2月16日~5月31日)
(4) 野生鳥獣被害対策(ニホンジカ被害防止対策)		
電気柵、防護柵の設置		
捕獲対策(市町が実施している広域捕獲等による個体数調整の推進)		

霧ヶ峰保全再生計画	1	(5) 外来植物対策	4 外来植物駆除対策
		外来植物対応の推進体制整備	(1) 自然保全再生実施計画及び個別作業計画として外来植物の駆除作業を実施
		適切な駆除方法の周知と効果の検証	県が平成 25 年度に作成したボランティア等向けの「外来植物駆除対策の手引き」を活用し、今年度と同様にモデル地区における外来種の駆除を実施する。モデル地区においては、計 5 年間駆除を継続実施し、モニタリング調査を行うなどにより、知見やノウハウを集積して他の地区への作業拡大を検討する。
		遊歩道の過剰利用による土壌攪乱、土壌浸食の防止 (遊歩道整備、利用者への啓発、部分的立入制限)	(2) 踊場湿原への特定外来生物（オオハングンソウ）の侵入に関するモニタリング調査
		湿原周辺地域における対策 (湿原入口での靴の泥落とし、ペット制限等)	天然記念物踊場湿原に侵入が見られるオオハングンソウの効果的な駆除を検討するため、モニタリング調査を開始予定。 (実施者：諏訪市教育委員会)
		地域住民、利用者への啓発 (種子や株を持ち込まないよう呼び掛け) (侵入、定着の危険性がある外来植物に関する情報発信)	
		事業者への要請 (新たな工事や緑化における土壌攪乱や使用する緑化材等)	
施設整備基本構想	2	霧ヶ峰彩り草原空間形成	1 諏訪市・下諏訪町等が遊歩道や木道等を整備・補修
		遊歩道、木道、公衆トイレの整備	2 諏訪市が車山肩に設置したバイオトイレを管理
		案内板、看板等の整備	
		休憩場所、写真撮影場所、ベンチの整備	
		自動車渋滞対策の検討	
		ペットの持ち込みに関する地域ルールづくり (自粛区域の選定、周知など)	
		ゴミポイ捨て対策	
		霧ヶ峰の利用に対する協力金制度の運用 (旅館・ホテル等への募金箱設置ほか)	
	施設の利用に関する負担金制度の運用 (トイレチップ制、渋滞ピーク時の一部有料駐車場ほか)		
モデル構築計画	3	(1) エコツアーの実施体制の整備	1 エコツーリズムの発展、インタープリターの養成のための事業
		エコツアー受入れ体制の整備 (総合的情報提供、ポータルサイトの運営、情報収集、各ビジターセンターの連携など)	(実施者：霧ヶ峰ビジターセンター連絡会)
		エコツアー参加者とエコツアー実施団体とのコーディネート（参加者のニーズに応じて最も適したプログラムへの参加を提案）	平成 26 年度に実施したインタープリター養成講座等の事業の継続実施を検討
		エコツアー実施団体間の連携 (エコツアー実施団体の情報共有のサポートなど)	討

モデル構築計画	3	宿泊施設との連携	
		参加・体験型プログラム実施のための諸団体との連携	
		(雑木処理、外来種除去活動等への参加をエコツアー参加者へ呼びかけるなど)	
		インタープリターの募集、養成	
		相互研鑽、質の向上	
		(実施団体の創意工夫、切磋琢磨を基本とし、講習会の開催など各団体の取組を支援)	
		エコツアーの健全な発展につながる料金設定	
		<b>(2) 情報提供、情報発信体制の整備</b>	
		霧ヶ峰のエコツアーの全国発信のための基盤整備	
		営業	
		マスコミ戦略	
		ビジターセンターの体制強化	